準グランプリ

モンゴルの花 石井荫様



不調を感じるようになりました。夜眠 候群になりました。 ず、涙が止まらなくなり、過換気症

ですが、2019年の1月頃から心身の

夫の仕事でモンゴルに滞 在していたの

年ほど続きました。 外に出られず、鬱々とする毎日が半

思いがけない楽しみを見つけて、夕飯後 近所をゆっくり散歩するのが習慣にな 用の日蒙の植物図鑑を手に入れて、ペー 花がたくさん咲いていました。旅行者 くにつれ日が長くなります。ある日の がバラバラになるほど引き比べました。 モンゴルは緯度が高いため、夏が近づ 家の周りをぐるっと歩いてみると



ベリアカラマツの山並みを見ながら、2 連れて行ってくれました。シラカバやシ こんな景色があったとは! 人でコーヒーを飲みました。モンゴルに アパートの裏手にある山までドライブに 7月に主人が国際運転免許を取り

結局、8月いっぱいで帰国することに

植物の役立つ特性と危険を深く理解し 満開の花を見てもあまり騒ぎませんが、 草だということを、ほんの小さい子ども ていました。 も知っていて触りません。モンゴル人は てみると、道端のイラクサやヒヨスが毒 らシーバックソーンのオイル。思い出 ナオウギの根を乾燥させたもの、それ かでも私に合っていたと思うのは、キバ 元のハーブを持ってきてくれました。な

匂いを嗅ぐこと、口に入れること、それ 私に一種のセラピーとして作用したこと は間違いありません。見ること、触れて 植物のある場所に身を置くことが すぎない、という意味だとか 葉があると教えてくれました。心配し に「野のユリから学びなさい」という言 作った花束をくれました。友人が、聖書 の子が、ウメバチソウをたっぷり摘んで 郊外に連れて行ってくれました。若い女 なり、モンゴル人の友人たちがお別れに

私の体調不良を知った友人たちは地

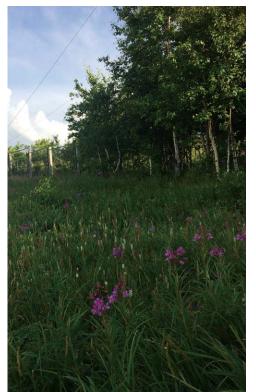
植物に興味を持ったことで心がほ

の変化が外に出るきっかけになっ うか。日が長くなったという四季 いが心の負担になっていたのでしょ 住み慣れない土地で、不安と戸惑

て、思いがけず出会った彼の地の



審查員講評



ちの植物への眼差しにも気づく。

物を通じて人々の優しさにも 第二の故郷ができたこと。貴

やハーブの効用、モンゴルの人た し、また、植物に秘められた言葉 しいと感じる健全な心を取り戻 ていなかった景色を前にして、美 につながったようですね。想像し ガーデンセラピーの扉を開くこと ぐれていく。外に出たその一歩が、 彼の地を踏むことを願ってやみません を通じて人と関わること。またいつか